



# ロリポップつうしん

NO. 10

～布おもちゃの貸し出しをしているボランティアグループです～

H.30(2018年)2月発行  
おもちゃひろばロリポップ

## にこにこクラブ



「おもちゃひろばロリポップ」の会員である藤沢市立白浜養護学校では、たくさんのおもちゃを毎年レンタルさせていただいています。

これらの布おもちゃは、個別の課題学習や生活などの授業の中で利用させていただいたり、休み時間に楽しく遊んだりして利用させていただいています。

特に、毎週水曜日の給食後の時間には、図書コーナーのスペースで『**にこにこクラブ**』を開催しています。「誰でも気軽に遊びに来てね！」をモットーに、地域支援でいくつかの布おもちゃを選び、すぐに遊べるように準備しています。

人気のおもちゃの一つに、おにぎりやのり巻き・ホットケーキなどの食育系のものがあります。自分で中の具材や飾り付けの果物などを選んで、握ったり、巻いたり、盛り付けたりします。その後にお友達や先生に「どうぞ。」と渡しに行き、

「いただきます！ぱくぱく。」「ありがとう。わあおいしい！」「次は、〇〇ちゃんね。」…と、子ども達のやりとりがあり、コミュニケーションの力が育ち広がる様子が見られます。

また、的あてをはじめとするゲーム系のおもちゃも人気があります。さかなつりは、魚の色を決めてマジックテープのついた竿で釣ったり、釣った魚を手に持って振りながら中の鈴の音を楽しんだりする姿が見られます。

季節に応じた布おもちゃもたくさんあって、その時期ならではの季節感を味わう機会になっています。七夕の時には飾り付けを楽しんだり、願い事を聞きながら短冊に書いてタペストリーに飾りました。12月には、リースやツリーの飾り付けを楽しみ、クリスマスソングを口ずさんだりもしました。

この時間は、主に小学部や中学部の児童生徒が遊んでいますが、クラスや学年を超えて関わりながら育ち会える貴重な機会となっています。

今年新しく加わった布おもちゃの、おおきなかぶは、子ども達がよく知っていて大好きなお話です。「うんとこしょ。どっこいしょ。」と一緒にかけ声をかけるのが楽しくて、一人ずつ仲間が増えながら力いっぱい大きなかぶを引き抜く・・・楽しい一体感に「またやろうね。」と次回を楽しみにしながら、子ども達は手を振って教室に帰っていきます。

今後も、暖かみのある布おもちゃで楽しい活動を引き出していきたいと思います。

藤沢市立白浜養護学校 地域支援担当



## おおきなかぶ



数年前のことです。プログラム内容を決める話し合いの中で『子どもたちもよく知っていて人気のある“おおきなかぶ”の話をもちiefにした活動をプログラムに取り入れよう！』という案が出ました。

話し合いを続けた結果「子どもたちが登場人物になり、大きなかぶを抜くゲーム」を実施することに決まり、ぱるのスタッフで大きなかぶを作成しました。

しかしながら、何度も使用している中で、縫い目がほつれることがあったり、新たなアイデアが生まれたりし、作り直したほうがいいのか？ということになりました。

布のおもちゃと言えばロリポップさん！ということで、ロリポップの方々におおきなかぶの製作を提案させていただきました。こんな素敵なかぶに生まれ変わるなんて驚きでした！

サービスセンターぱる 和田 健士

“**田園に囲まれ、ひっそりと佇むギャラリー**” 格好良く言えば、そんな表現になるでしょうか。光友会でギャラリーを担当している職員さんは、こんな風に説明してくれました。かわうそギャラリーは、社会福祉法人光友会が拠点を構える「湘南ふくし村（藤沢市瀬郷）」で、障がい当事者のアート作品を中心に扱うギャラリースペースとして運営されています。今回は、2017年3月にかわうそギャラリーで開催された「**やさしい布おもちゃ展**」のご報告をします。



平日の日中のみ開館することから来館者は、60代以上の方が多い傾向にあります。今回は、シニア世代の方のみならず、子育て世代の方や子どもたちもたくさん遊びに来てくれました。

来場された方は、共通して「**可愛らしい**」と自然と笑顔になっていきます。そんな様子を見ながら、安全性やデザイン、そして、小さな声に耳を傾け一人一人に寄り添いながらコンセプトを形にしてきた関係者の「**想い**」を紹介させていただきました。来場された方からは、次回の開催を要望する声や貸し出しや販売に関する問い合わせも複数頂きました。

社会福祉法人 光友会 澤野 亮介

## TOYSTATION Kankankyo

アートギャラリー閑々居（代表北條和子さん）を拠点とし、どんぐりのおもちゃを貸し出す**TOYSTATION Kankankyo** 穂苅もデザイナーとして参加し、重度心身障がいの子達も楽しめる玩具が生まれ始めています。

2017年4月に発足した「**TOYSTATION Kankankyo**」も、11月13日に初めて東京小児療育病院へおもちゃを届けにいくことができました。長田婦長さんやスタッフの方々が待っていてくださいました。おもちゃを見ると子供達の為、よりも先に現場の皆さんが遊びたくなくなってしまった感がありました。訓練とか学習とか「上から目線」のもとには、子供達の心躍る遊びは生まれません。何の為の訓練、学習でしたっけ？ 大人が楽しんでいると子供達は引き込まれ、夢中になってわれを忘れて知らず一歩踏み出せるのです。

どんぐりの皆さんが作るおもちゃ達のスゴさは、大人も子供も夢中にさせる力を持っていることです。だからこそ「一歩」を引き出せる。ベッドから出られない重症の力君の虚ろな瞳が、押すとピッと鳴くキツネの音にスーッと焦点が合っ、顔中に笑みが広がっていった光景を私は忘れられません。自分の手が押すことでこの音が出ていると認識した大事な一歩の瞬間です。

アートギャラリー閑々居 北條 和子

## おばけあつまれ絵本 CD 完成【ロリポップオリジナル】



「おばけあつまれ」は、穂苅が企画デザインし、パネルシアターを布絵本化しました。元々の歌詞を知的障がい児向けに覚えやすく口ずさみやすい歌詞に一部変更。作曲は白浜養護学校の松尾先生。クリスマスバージョンは、藤沢育成会「サービスセンターぱる」の和田さん。愛嬌のあるお化けたちがリズムカルな数え歌に乗ってでできますよ。

## Information

● TOY工房どんぐりでは、今まで個別に貸し出しをしていましたが、2018年1月からは「**貸し出しステーションどんぐり**」として活動することになりました。

● 新しいおもちゃをリクエストして頂ければ、お届けします。どんぐりのホームページからも商品リクエストできますのでご利用ください。 <http://toy-donguri.net/>

## 編集後記

ロリポップの活動10年をきっかけに、穂苅がデザイナー専任、ロリポップつうしん編集担当の小林が副代表になりました。10号より編集は木内が担当します。どうぞよろしくお願いします。今回も会員の皆さまに、沢山ご寄稿を頂き、完成しました。ありがとうございました（木内）